

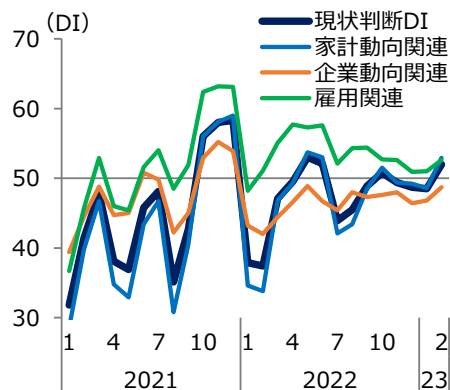
日本

景気ウォッチャー調査（2023年2月）

現状判断DIは4カ月ぶりに景況判断の分かれ目を上回る

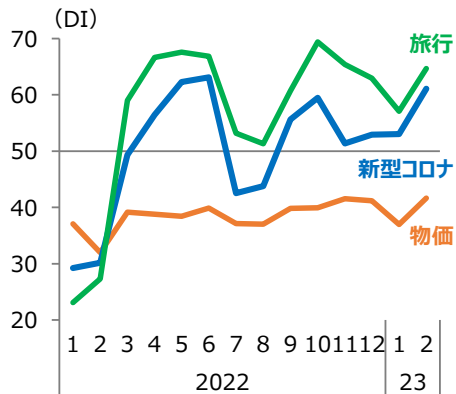
政策・経済センター
菊池紘平
03-6858-2717

1 現状判断DI



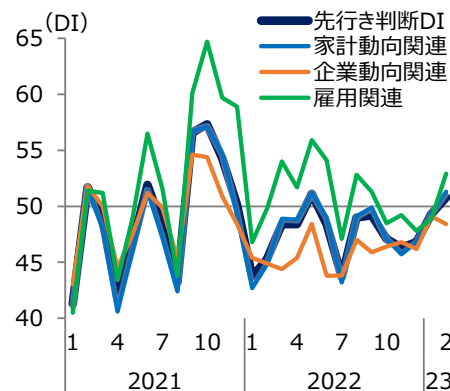
注：DIは、5段階の回答区分に点数を与え（良い：+1、やや良い：+0.75、変わらない：+0.5、やや悪い：+0.25、悪い：0）、各構成比に乗じて合計したもの。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」より三菱総合研究所作成

2 景気判断要素別の現状判断DI



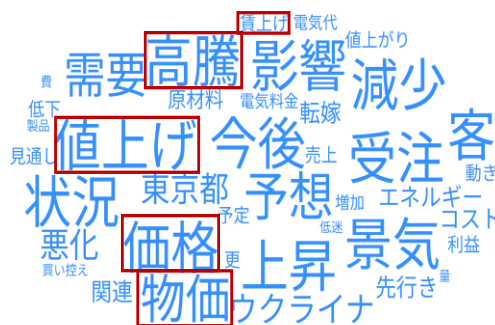
注：景気判断理由のうち、各要素を含むコメントを抽出し、図表1と同様の手法でDIを算出したもの（複数要素を含むコメントも存在する）。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」より三菱総合研究所作成

3 先行き判断DI



注：DIについては図表1の注を参照。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」より三菱総合研究所作成

4 企業動向に関するテキストマイニング



注：ユーザーローカル「AIテキストマイニング（<https://textmining.userlocal.jp/>）」で分析。赤枠・縮尺は三菱総合研究所による加工。企業動向関連コメントのうち、先行き判断を「やや悪くなる」、「悪くなる」とした理由を対象とした。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」、ユーザーローカル「AIテキストマイニング」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年2月の景気ウォッチャー調査では、現状判断DIが52.0ポイント（季調済前月差+3.5ポイント）と、景況判断の分かれ目である50を4カ月ぶりに回復した（図表1）。飲食関連の景況感の改善を受けて、家計動向関連DIの上昇が全体をけん引したほか、企業動向・雇用関連も前月に比べて上昇した。
- 現状判断に係る景気判断理由をみると、冬場の新型コロナ感染状況が落ち着いたことや、国内外からの団体旅行の増加などが、前向きな見方の拡大につながった模様。景気判断要素ごとに現状判断DIを再構成すると、「旅行」関連DIや「新型コロナ」関連DIの上昇が顕著であり、これらの要素が景気のプラス材料となっている状況が確認される（図表2）。
- 先行き判断DIについても、家計動向・雇用関連が改善し、50.8ポイントと、9カ月振りに50を上回った（図表3）。

基調判断と今後の流れ

- 街角の景況感、人流の回復や新型コロナの感染縮小などを受けて、緩やかに改善している。
- 先行きについても、一段の経済活動正常化に対する期待が高まるなかで、前向きな見方が優勢だ。家計動向関連については、物価上昇に対する懸念が景況判断を下押しする状況が続いているものの、5月に新型コロナの感染症法上の位置付けが「5類」に移行される方針を受けて、客足の改善やイベントの活発化を見込むコメントが多くみられた。
- 他方、企業動向関連では、先行き判断DIが前月に比べて僅かに悪化している（前掲図表3）。この理由について、先行き判断を「悪くなる」、「やや悪くなる」としたコメントを分析すると、既往の原材料価格などの高騰による物価・仕入価格の上昇に対する懸念が根強いことが見てとれる（図表4）。また、十分な賃上げが実現せず家計の購買力が低下することを懸念するコメントも散見されており、企業景況感を見通すうえでも賃上げ動向が重要な局面といえるだろう。